

未来へつなげ150年目のバトン！ ～笑顔の花をいつまでも～

大銀杏



～2学期のスタートに～

令和7年9月
校長 中能 健尚

夏休み、子どもたちに大きな事故や怪我がなく、無事終了できたことに保護者、地域の皆様から感謝申し上げます。さて、2学期は、学習期間も長く、多くの行事が計画されています。早速、行われる行事が、地区合同運動会です。今年度の運動会は、上市来小創立150周年の記念の運動会になります。その後、陸上記録会、県民週間、持久走大会など準備期間が長くなる行事が続きます。子どもたち一人一人が、よさを大いに発揮し、学校生活に喜びを見出しながら、成長していけるよう実り多き2学期づくりに努めてまいります。



【校長室の窓（9月）】

本当のしつけ（大人の責任）

猛暑の夏休みでしたが、子どもたちは、澁刺とした元気な姿で登校してきました。きっと思いきり楽しい夏休みを過ごしたのでしょう。2学期には、その体験から得た力を大いに発揮してほしいと思います。私は、旅行が好きで、夏休みは、よく家族で旅行をしていましたが、この旅行中に様々な家族の姿を見る機会があり、考えさせられることもありました。たとえばこんなのがありまして。バイキングの朝食時、子どもが食べられそうもないほどたくさんのお皿を次々に持つてくるのに、ご両親は子どもに何も言わないのです。食事後、テーブルには手つかずの食べ物がいっぱいありました。「茶碗にご飯粒を残さない」という食物を大切にすることを教える、すでに絶えてしまったのでしょうか。残念な思いでした。一方、素敵な心遣いをするお母さんもいました。私の隣のテーブルを使用していたお母さんは、食後に同じ大きさのお皿を重ねて、ふきんできれいにテーブルを拭いて整えてから席を立ちました。子どもも一緒に拭いていました。子どもは親（大人）の後ろ姿を見て育つと言われます。このような場面に出合い、私自身も大人としての自分の立ち居振る舞いを反省させられました。そんな折、ある冊子で「つもりのしつけ」という興味深い一文を読みました。調査の結果から、保護者の多くは、わが子を十分にしつけたつもりになっているというのです。その調査では、保護者と教師の8割以上が、一般的な家庭のしつけについて不十分だと思っているにもかかわらず、7割の保護者は、わが子のしつけはうまく行われているととらえているというのです。つまり、多くの保護者は、他の家庭のしつけは不十分だけれど、わが家では十分にしているつもり、だということです。たとえば、私たちは、子どもに「あいさつをしっかりと毎日するように言っています。言っているから十分にしているつもりになっているつもりです。けれども、実際に子どもがあいさつできていないとしたら、本当にしつけていることにはなりません。私たち大人は、子どもをしつけたつもりではなく、本当にしつけるために、しつけの結果を確認する必要があります。家庭・地域・学校がそれぞれの場で、子どもの姿を見ながら、じっくりと「本当のしつけ」ができるように取り組んでまいりましょう。

頭の体操に挑戦！

☆何と読むでしょうか？

①  ② 

どすこい！

【前回の答え】①流しそうめん ②関取 でした。

上市来小・養母地区合同運動会

期日：10月19日（日）
※ 今年、上市来小創立150年の節目の年です。みなさん、ぜひ、見に来てください。